

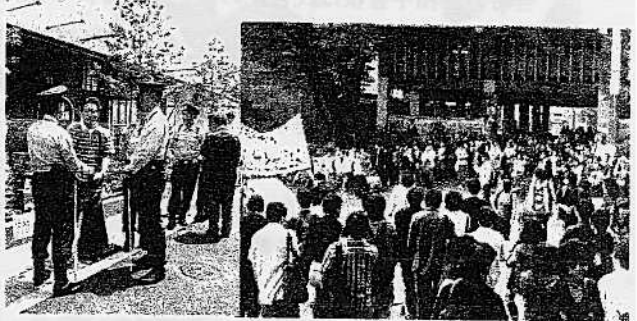
幕張支部の闘いから学ぶこと

◎日々の闘いで職場支配権を握る闘い

～毎日、毎日が闘いの法政大学の闘いから～

幕張支部が、事故を起こした運転士に対して逆に当局を追い詰める闘いができたのは、日々の闘いで常に当局を追い詰める闘いをやっているからだ。逆に言えば、日々闘っていないと当局とは闘えない。そして、日々闘って団結を作ること。そうすれば、一人のためにみんなが闘える、みんなのために闘える団結が作れる！

06年3.14法大弾圧から、キャンパスで闘えば学生が300、400と人が集まるようになった。06年6月15日には法大生が千人集まる集会も行った。今年度に入ってから当局はキャンパス生を決起させないようにするために正門を封鎖する措置をとり始めた。しかし、それでも法大生は来る。法大生は集まるなぜ集まるのか？法大生がノリがいいという理由だけではない。法大生がノリがいい雰囲気をつくるキャンパスで作っているのも、日々闘ってキャンパスの自由と自治を守ってきたからだ。毎日、毎日ピラをまき、昼休みの演説を行い、ガードマン・公安警察とのやりあい。そういう日々の闘いが法大の自由な雰囲気を作ってきたのだ。キャンパスの主人公は学生だ。当局か学生か、どちらがキャンパスの支配権をとるのか。権力奪取の闘いは日々、キャンパスで闘うことなのだ。



■闘わないとこうやって腐っていく

動労千葉と他労組の違い

	動労千葉	国労／東労組
当局が来たら	前日に意思一致をして、組合の団結を見せる行動をする。	おとなしくしていれば過ぎ去るという考え方
運転士の事故/ミスに対して	会社に4億円の被害を负わせ出勤停止15日間	運転席でメールを見て、懲戒解雇
館山運転区廃止について	廃止そのものに絶対反対で闘い、全員第1希望の異動先になった。	廃止そのものには闘わず、条件闘争ばかり。
仕事の向き合い方	手を抜いたら当局に物が言えないのできちんと仕事をする。しっかり仕事することが実力闘争という考え方。	物を言わなくなると手を抜くこと、早く帰ることばかり考える。

一つひとつの局面で組合がどういう立場をとるかによって、団結が強化もされるし、崩壊もする。労働組合が腐りもすれば、強化もする。仲間の首を切らしてしまうことにもなれば、守ることもなる。

(p44 下 田中委員長)